

場所 大阪府豊能郡能勢町

面積 14.48ha

活動目的 ゼフィルス類などのチョウ類が生息する環境を維持するとともに、チョウ類と共存しうる多様な動物種が生息する場所を目指す。多様な動物種の生息を支える植物が生育する、クヌギ、コナラ、ナラガシワを主要構成種とする落葉広葉樹林を維持する。



サイト概要 本サイトは大阪府豊能郡能勢町と兵庫県猪名川町の府県境にある三草山（標高564m）中腹に位置し、「三草山ゼフィルスの森」（約14.48ha）として申請者が管理する森である。

日本国内で確認された森の宝石ゼフィルス（ミドリシジミ類のチョウ）25種のうち10種が生息しており、中でもヒロオビミドリシジミにとっては府内唯一の生息地で、日本の分布の東限である。希少種のゼフィルス類を保護するため、1992年に大阪府自然環境保全条例に基づく緑地環境保全地域に指定された。

土地利用の 変遷

三草山には、ナラガシワやコナラ、クヌギなどの落葉カシ類を主体とする里山林が残され、10種のゼフィルス類のほか多様なチョウ類が記録されている。薪炭林や茅場として活用されていたが、燃料革命や肥料革命による里山林の放棄・荒廃は三草山も例外ではなく、林床のネザサの伸長、照葉樹の侵入、高林化などの植生遷移が進行し、チョウ類をはじめとする生物多様性の減少が懸念されるようになった。

サイト周辺の 環境

三草山周辺には農林水産省の日本の棚田百選に選ばれた長谷の棚田をはじめとする田畑が広がっている。隣接する神山地区の棚田では遊休農地を多様性豊かな稲作水系へと復活させるべく、遊休農地再生事業「タガメの田づくり」活動地として、棚田の維持管理を行っている。

アピール ポイント

1992年より産官学様々な主体と協働して活動を継続している。2014年度からは学識経験者、地元住民、ボランティア団体、大阪府、能勢町、当協会などが参画する三草山ゼフィルススの森保全検討会議が策定した保全活動計画に基づいて、関係者が主体的・計画的に保全活動を進めている。能勢町立小中一貫校や関西大学第一中学校が環境学習の場として、また、エネクスフリース株式会社等の企業が社会貢献活動の場として活用している。

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

- ①大阪府自然環境保全条例に基づく緑地環境保全地域（1992年指定）
- ②環境省 重要里地里山 No27-19 名称：三草山・長谷（2015年指定）

【選定理由や内容】

① 能勢町南部にあたる三草山は、標高564mの独立峰で、その山麓には幾多の街道がとおり、かつては平家物語の三草合戦の巻の舞台にもなった場所である。また、付近では、特徴的なガマ式水路（石積みのトンネル水路）をもつ棚田が残っており、古くからの里山的景観を残している。

大阪府内でもその生育がまれなナラガシワを含む落葉広葉樹の二次林となっており、局所的にしか生息せず、三草山が日本の分布の東限にあたるヒロオビミドリシジミなど、日本に生息するミドリシジミ類25種のうち10種が生息し、学術上貴重な地域となっている。

しかし、二次林が利用されなくなり、放置された結果、ミドリシジミ類の生育に必要な開放的な林相が失われつつあること、マニア等による盗伐等が見られたこと、樹林地の転用などにより、周辺では同様の環境が失われつつあることなどから、保全活動を促しこの環境を維持するために大阪府緑地環境保全地域に指定した。

② 三草山は大阪府と兵庫県の境にある標高564mの里山であり、三草山の北の山麓にある長谷の棚田と一体となって地域の生態系や景観を創出している。クヌギ、コナラ、ナラガシワ等の落葉広葉樹林、山麓のクリ林、棚田などを含むモザイク状の土地利用が維持されており、ナラ科木本類を食樹とするミドリシジミ類をはじめ、里地里山に特徴的な昆虫が生息していることから、「里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する。」という基準を満たしていることから選定した。



写真の説明：ヒロオビミドリシジミ

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

薪炭林として活用されてきた場所であることから、ナラガシワ・クヌギ・コナラなどを主体とした落葉広葉樹が多く見られる二次林である。ヤマザクラ、クリ、エノキなどもあることから、里地里山の特徴的な昆虫が生息している。

【主な植生】

申請区域内の自然林における主な植生はアベマキ-コナラ群集、ニシノホンモンジスゲ-クヌギ群落である。なお、区域内の一部はスギ・ヒノキ・サワラ植林、クス群落である。

【確認された主な動植物など】

申請区域ではチョウ類のトランセクト調査を、これまで6回（1992、1995、1999、2001、2004、2015）実施したのをはじめ、動植物の調査が行われた。その結果、動物17目65科185種、植物85科234種が確認された。特徴的なのは日本国内で25種存在しているゼフィルス類のうち、10種が確認されたことである。大阪府レッドリスト2014に掲載された重要な種も15種確認されている。一方で特定外来生物のクリハラリスやソウシチョウなども生息しており防除などの管理が必要である。

植物は、ナラガシワ・クヌギ・コナラなどを主体とした植生を反映してスミレ類などの里山の植物が確認されている。



写真の説明：サイト内の代表的な景観



写真の説明：優占種のヒカゲチョウ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

薪炭林として使われてきたナラガシワ・クヌギ・コナラ二次林が残され、典型的な里地里山の環境が見られる。中でもナラガシワを食餌木として寄生している希少種のヒロオビミドリシジミ (*Favonius latifasciatus*) (大阪府レッドリスト2014 絶滅危惧Ⅰ類) が確認されている。

【確認された希少種】

- ・環境省、大阪府、能勢町が公表する希少種リストによれば、下表に示す哺乳類2種、鳥類1種、昆虫類17種、植物6種の確認記録がある。
- ・三草山を代表する希少種としては、ヒロオビミドリシジミ (学名：*Favonius latifasciatus*) があげられる。同種は、府内唯一の生息地で、日本の分布の東限である。卵で越冬し、成虫は年に1回、6月を中心に発生する。(公財)大阪みどりのトラスト協会が1992年に保全活動を開始してからも毎年確認されている。



写真の説明：絶滅危惧Ⅰ類 ヒロオビミドリシジミ



写真の説明：ヒロオビミドリシジミの卵

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>〈活動目的〉 ゼフィルス類などのチョウ類が生息する環境を維持するとともに、チョウ類と共存しうる多様な動物種が生息する場所を目指す。多様な動物種の生息を支えるクヌギ、コナラ、ナラガシワを主要構成種とする落葉広葉樹林を維持する。</p> <p>〈活動内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防鹿柵設置・メンテナンスなどの維持管理、道普請、萌芽更新、草刈りなどの保全活動施業 ・環境教育の場としての活用（地元小中一貫校、都市部私立中学校などを対象） ・三草山ゼフィルスの森保全検討会議で決定した各種動植物の調査 ・都市住民を主な対象としたゼフィルス観察会、植物観察会、ハイキングなどの普及啓発 ・防鹿柵設置後の植物遷移のモニタリング <p>〈実施体制〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（公財）大阪みどりのトラスト協会が中心となって、ボランティア団体・学識などと協働し、これら保全・利活用、その他の維持管理作業を行う。 	<p>【モニタリング対象】 チョウ類をはじめとする昆虫類、植物を対象とする。植物については特に、防鹿柵設置後の植生モニタリング調査を行う。</p> <p>【モニタリング場所】 三草山ゼフィルスの森全域及び神山地区のタガメの田づくり活動地の柵田周辺など。</p> <p>【モニタリング手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョウ類トランセクト調査など ・防鹿柵内での柵設置後の植生変移調査など <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本鱗翅学会によるトランセクト調査（年に1回以上） ・大阪公立大学による植生調査（年に1回以上） <p>【モニタリング実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本鱗翅学会近畿支部及び自然保護委員会「三草山トラスト委員会」 ・大阪公立大学大学院農学研究科 緑地環境科学専攻 ・（公財）大阪みどりのトラスト協会及びボランティアが参画